

# 熊本平野に分布する活断層を調査し、 地震被害想定や各種対策につなげる

## 【対策】110 防災計画に資する活断層情報の解析・評価、集約・情報提供対策

対策概要：災害に強い都市計画や防災計画策定に貢献するため、過去の地震の要因である活断層の履歴やその活動性を解析・評価し、その結果のデータベース化、情報提供を行う。

府省庁名：経済産業省

## 【事例】熊本市及びその周辺地域での反射法地震探査・ボーリング調査

- 実施主体：国立研究開発法人産業技術総合研究所
- 実施場所：熊本県熊本市及びその周辺地域
- 事業概要：熊本市内に分布する水前寺断層帯および立田山断層については、その分布範囲や活動性に不明な点が多く残されている。熊本市とその周辺地域の地震災害のリスクを評価するため、活断層の反射法地震探査・ボーリング調査を行った。
- 事業費：3.1億円
- 効果：調査結果は、熊本市の地震被害想定に活用される予定であり、より効果的な各種地震対策の実施につながる。
- その他：被害想定に実効性を持たせるためには、市民や企業への情報発信、防災知識の普及、活断層情報の利活用の拡大を促進し、災害時の支援体制の整備にまでつなげることが必要である。そのために、同市と産総研の間で連携を深めていく予定である。



左：立田山断層を対象に熊本城公園付近で実施したボーリング調査風景

右：水前寺断層を対象とした反射法地震探査風景

※ボーリング調査：地盤に細い孔をあけ、コアと呼ばれる棒状の試料を採取して地層の状態などを把握するための調査手法。

※反射法地震探査：地面から人工的に発生させた地震波が、地下の地層境界で反射して戻ってくる現象を利用して地層の広がりや断層の位置などを把握するための調査手法。